



SGN News



第41号 2023年3月
滋賀グリーン活動ネットワーク
ニュース

～滋賀から「グリーン経済」をつくる～

連携推進事業 グリーン経済フォーラム2022

『食』から「グリーン購入」を考える

～フードサプライチェーンで考えるサステナビリティと経済循環～

【会場(フェリエ南草津5階 市民交流プラザ 大会議室)と オンライン(ZOOM使用)の併催】開催報告

プログラム	■開会挨拶 秋山 道雄 (SGN会長) ■基調講演 『フードサプライチェーンをめぐる環境負荷評価』 天野 耕二氏 (立命館大学 食マネジメント学部 学部長) ■事例報告1 『びわ湖の中から湖魚のフードサプライチェーンを考え直す』 駒井 健也氏 (フィッシャーアーキテクト 代表・志賀町漁業協同組合 組合員) ■事例報告2 『コープしが店舗事業における環境負荷削減と 組合員への啓発の取り組みについて』 安岡 寿司氏 (生活協同組合コープしが 店舗事業部管掌 常務理事) ■事例報告3 『学食へのヴィーガンメニュー導入とサステナビリティ』 市村 リズム氏 (立命館大学 学生団体LiNK 共同代表) ■質疑応答・ディスカッション コーディネーター：宮永 健太郎 (京都産業大学 経営学部 准教授・SGN運営委員)	◆開催日：2022年11月15日(水) ◆参加者：約50名 天野 耕二氏 駒井 健也氏 安岡 寿司氏 市村 リズム氏 宮永 健太郎氏
-------	---	---

6月のグリーン購入シンポジウムで『住』から「エネルギーのグリーン購入」を考えたことに続き、今回のフォーラムでは誰にとっても最も身近なテーマである『食』を取り上げ、『食』に関わる「サプライチェーン」全体における環境負荷とサステナビリティを考えました。我々の命を繋ぐ『食』について、どのような調達や消費活動を行うことが真の意味での「グリーン」となるのか、専門家の先生と現場の事業者の方々と一緒に深掘りしました。

基調講演『フードサプライチェーンをめぐる環境負荷評価』 天野 耕二氏

近年の気候変動の原因は人間活動によって排出されたGHG（温室効果ガス）であり、これによる被害が経済に膨大な損失を与えていると説明いただきました。環境負荷を「見える化」するツールとして「ライフサイクルアセスメント」が活用されており、「食」の“ゆりかごから墓場まで”に排出されるGHGの数値を、食材、生産地、生産時期など様々な角度から示されました。特に水田から多量のメタンが発生していることについては、多くの参加者が驚いていました。食料を動物から植物に置き替えていくことでGHGの量が減るだけでなく、使用する水の量もかなり少なくなるとのことで、たんぱく質の摂取方法として植物肉への代替や昆虫食・藻類食も紹介されました。また、コロナ禍で激増したテイクアウト等の「中食」はプラスチック容器包装が環境負荷を与えていること、旬でない食べ物をハウス栽培するよりも輸入する方がCO₂排出量は少なくなること等も数値データにより示していただきました。

INDEX



- グリーン経済フォーラム2022 1
- 新役員紹介 2
- 新規会員からひとこと 2
- 活動レポート1 3
- 活動レポート2 4
- エコ情報室 祝!「世界農業遺産」認定
～琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業「琵琶湖システム」～ 5
- 会員限定 メルマガ、ホームページにおける情報提供 5
- SGN会員でつなぐリレートーク オムロン株式会社 6
- ごみゼロしが 滋賀県ごみ減量・資源化情報サイト 6
- 潮流 『世界初!フランスで「衣類廃棄禁止令」が施行
更に紙製も含めた「使い捨て容器使用禁止」へ』
『食品ロスなくそう!「てまどり」が現代用語の基礎知識選
ユーキャン新語・流行語大賞トップ10に選出されました』
『全国初!東京都で新築住宅の太陽光パネル設置義務化!』 7
- 会員発エコ商品情報 8
- ご存じですか? 2023年6月1日より
アカミミガメ・アメリカザリガニが「条件付特定外来生物」に
指定され規制が始まります! 8

事例報告1『びわ湖の中から湖魚のフードサプライチェーンを考え直す』 駒井 健也氏

持続可能な農業・漁業の在り方を模索する取組を紹介いただきました。獲れた後に流通しない魚に目をつけ、地域のマーケット等で、まずは湖魚に興味を持ってもらうことから始められているとのこと。漁師×料理人のコラボレーションで湖魚の様々な食べ方を考案したり、湖魚の下処理方法を漁師に広める講習会を開いて地道に活動されており、琵琶湖への熱い想いが伝わってきました。

事例報告2『コープしが店舗事業における環境負荷削減と組合員への啓発の取り組みについて』 安岡 寿司氏

生産者と消費者の間にある販売事業者として店舗で行っている食品トレー・牛乳パック・ペットボトルのマテリアルリサイクル（商品化）の取組や、ラベル無し仕分け袋の活用、リサイクル回収品目の拡大、食品残渣のリサイクル等多岐にわたってご紹介いただきました。また、プラスチック削減の取組として、容器持参で割引になるトマトバイキング、ノントレー商品が導入されており、今秋から冬にかけては滋賀県産商品の量り売りが予定されています。2030年までの目標としてCO₂排出量40%削減を掲げ、組合員への啓発活動として最近特に力を入れているという楽しいYouTube動画も披露いただきました。

事例報告3『学食へのヴィーガンメニュー導入とサステナビリティ』 市村 リズム氏

まずヴィーガンの定義として、「生活全般において動物由来のもの以外を選ぶ生き方」との説明がありました。土地・水・飼料の面からも環境負荷が非常に少ないヴィーガンという選択が身近なものになれば、食と環境問題の繋がりについて考える機会が生まれるのではと考え、学食に動物由来の食材を使用しないメニューを提案して開催した『ヴィーガンフェア』についてご報告いただきました。誰もが気軽に食べられることが、今後の植物性の食のあるべき姿で、ヴィーガン食であっても妥協せず美味しさを追求していくことが市場を拡大し、サステナブルな経済循環を生み出す一つの方法になるのではないかと締めくくられました。

講演後のパネルディスカッションでは、京都産業大学 経営学部 准教授でSGN運営委員の宮永健太郎氏のコーディネートで議論が進みました。参加者から、生産者・販売業者と大学との連携について質問が出され、食マネジメント学部が創設される以前は理工学部で環境問題を扱っておられた天野教授より、食は誰もが関わるものであり、食から社会課題や環境問題が見えてくる、食マネジメント学部という新しい分野には、課題意識を持った学生が多く入ってくることからも、流通販売側と大学との連携は進めていく必要があると考える、課題解決には異なる分野とのコミュニケーションが必要であるが、「食」は誰もが関わることからコミュニケーションを始める糸口になれることを気づかされた、とのコメントをいただきました。

一般社団法人
滋賀グリーン活動ネットワーク

新役員紹介

11月25日に開催した
第11回臨時会員総会にて
ご就任いただきました。



株式会社 滋賀銀行 総合企画部
サステナブル戦略室 広報グループ長 **成子 真人**

滋賀銀行は、「お金の流れで地球環境を守る」との考えのもと、環境経営を早くから実践しています。昨今の気候変動や脱炭素、生物多様性保全等の社会的課題は、私たちだけでなく将来世代へも大きな影響を与えています。事業を通じて持続可能な地球環境の保全に貢献するとともに、誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向け、未来志向で取り組んでいきますので、よろしくお願いします。

**新規会員から
ひとこと**

2022年5月9日から2023年2月1日までの入会者



株式会社スズキ自販滋賀

特販部長 鳥山 雅之

スズキ車を販売するディーラーです。環境に優しいハイブリッド車をご提案し広める事で、環境保全のお手伝いをさせていただきます。

現会員数：456 団体 [企業 375、団体 59、行政 22] (2023年2月1日現在)



活動レポート

「グリーン購入+エシカルキャンペーン」

10月～12月 実践促進+暮らし方普及

今年度もエシカル消費を含めた持続可能な滋賀県発の新しい消費行動を日々の生活に定着させることを目的にキャンペーンを実施しました。昨年に引き続き県内小売店、会員事業者、県内市町の協力を得て、ポスター、POPの表示、店内放送、広報誌、ホームページ等による啓発を行いました。

2日間店頭啓発を行い、今年度も多くの参加宣言が集まりました。



「グリーン購入+エシカルキャンペーン・イベント」

- 10月22日（「グリーン購入+エシカルキャンペーン」
店頭啓発 近江八幡会場）
- 12月18日（「草津市地球冷やしたい推進フェア」
出展 草津会場）



近江八幡会場(10/22)



草津会場(12/18)

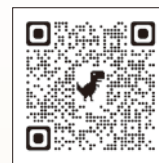
景品協賛をいただいた会員の皆さま、キャンペーンを盛り上げていただきありがとうございました。

研究会活動報告 連携推進

◆エコ交通研究会

- ・毎月配信されるSGNメルマガにエコ交通研究会メンバーが交代でコラムを掲載し、エコ交通研究会の情報を発信。
- ・日野町カーフリーデー視察 2022年9月22日

パークアンドライドを含めた通勤用シャトルバスを運行し、渋滞緩和やCO₂排出量削減効果の検証を行うため、日野町で実証実験が行われました。当日は実証実験に参加されていたSGN会員の(株)ダイフク通勤ルートの視察や、意見交換会が開催されました。



エコ交通研究会
ホームページ



通勤用シャトルバス
(9/22)

◆MORIと暮らしの研究会

- ・森の福利厚生ツアー～森のみなさんと一緒に保全活動、
森歩き、マインドフルネス体験 開催 2022年11月18日

森林の精神・身体面への好影響が科学的に実証されていることから、「森」を会社の福利厚生活動に活かし、社員の活力を高め、同時に自然の保全にも貢献するプログラムの開発と、福利厚生活動や社会貢献メニューへの組み込みの可能性について考察するために実施しました。

当日は森林ボランティアの皆さんと一緒に散策をしながらの森の保全活動（コース整備（落枝葉やコースのシャガの除去など）をしながら菅山寺山門へ）をし、生息する植物や動物の解説等をお聞きました。菅山寺をめぐる歴史やケヤキの巨木のお話を聞いたり、ロックバルシング体験も行いました。



山道コース整備の様子
(11/18)

◆生物多様性と環境・CSR研究会

- ・「生物多様性をめぐる世界の動きと日本企業
～事業経営と緑地管理・生物多様性モニタリング～」 2023年2月14日

生物多様性保全は、気候変動問題と並行して取り組まなければならない喫緊の課題で、もはや他人事では済まされません。土地を持っている企業にとっても、土地を持たない事業者等にとっても、社会的責任を果たしながらそれぞれの事業も好転させていくためには、お互いの出来る事を出し合い連携をしていく必要があります。

生物多様性を取巻く国内外の状況や、環境省で進められているお取り組みについて、また県内での事業者さまのお取り組み（パナソニック株式会社くらしアプライアンス社、積水樹脂株式会社）や地域に根差した団体（NPO法人 蒲生野考現倶楽部）の取組紹介を通して、参加者の皆さまに生物多様性保全の重要性やこれからの事業経営における必要性などをお伝える貴重な機会となりました。



ディスカッションの様子
(2/14)



活動レポート 2

「会員講師派遣事業」 2022年度 暮らし方普及

2022年度は以下の方に2大学へご出講いただきました。

- ・滋賀県立大学「環境経営学」
生活協同組合コープしが 濱 均氏・三田村 弦郎氏
株式会社沢田商店 沢田 昌宏氏
大阪ガス株式会社 小林 雅幸氏
- ・京都産業大学「ソーシャル・ガバナンス論」オンライン対応
近江鉄道(株) 岸田 幸大氏
対談 岸田 幸大氏・近藤 章博氏・北原 翔氏
サンキューファインホース夢プロジェクト (steedプロジェクト)
(滋賀県聴覚障害者福祉協会びわこみみの里内) 田中 欣也氏



県大講師派遣の様子

全て出講日程順に掲載
講師をお務めいただいた皆様、
ご協力ありがとうございました。

「自治体部会連携 買うならエコリレー」

2022年7月～2023年3月 暮らし方普及

県内自治体連携で「パネル展示（庁舎等での展示）」と「ブース展示（イベントにて展示）」にてグリーン購入を普及啓発する「びわ湖一周『買うならエコ!』リレー」。7月上旬からスタートし、3月中旬でゴール予定です。



草津市の「エコライフフェア草津2022」にて
エシカルすごろく卓上版を活用いただきました

「自治体のグリーン購入担当者連絡会議」

2022年7月14日 実践促進

今年度はオンラインにて開催しました。環境省 大臣官房 環境経済課 課長補佐 田中 裕涼氏にグリーン購入法の概要や、令和3年度の主な見直し点についてご講義いただきました。後半の連絡会議では、啓発リレーや自治体アンケートについての報告がありました。また、指定管理先等のグリーン購入の実態の把握について質問がなされ、各自自治体から回答があり、田中氏からも指定管理先等に限ったことではないが、各自自治体でグリーン購入が広がっていくことは非常にありがたいことだ、との感想をいただきました。（参加者：21名）



連絡会議の様子

環境省
田中裕涼氏

GPプラン滋賀(2022年度実績) 県受託事業 実践促進

前期

2022年4月～9月

GPプラン滋賀 2022年度 支援プログラム 日程表

2022年10月～2023年3月

後期

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

後期

2022年10月～2023年3月

前期

2022年4月～9月

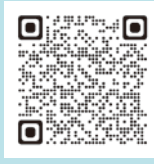
後期

エコ情報室

祝！「世界農業遺産」認定

～琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業「琵琶湖システム」～

滋賀県農政水産部農政課



滋賀県
琵琶湖システム

◆世界が認めた！

滋賀の農林水産業「琵琶湖システム」

琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業「森・里・湖（うみ）に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」が、令和4年7月18日、国連食糧農業機関の「世界農業遺産」に認定されました！

「世界農業遺産」とは、社会や環境変化に適応しながら継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに関わって育まれた文化、景観、農業生物多様性などが一体となった世界的に重要な農林水産業のシステムを認定する仕組みです。現在、世界で23か国72地域、日本では13地域が認定されています。

「琵琶湖システム」とは、エリ漁をはじめとする「琵琶湖漁業」、湖魚が琵琶湖から遡上して産卵・繁殖する「魚のゆりかご水田」、また、琵琶湖の水質や生態系の保全に寄与する日本一の「環境こだわり農業」、さらに、湖魚を御飯に漬け込んで作るフナズシなどの「伝統的な食文化」、琵琶湖の水質や生態系を守る「水源林やヨシ帯の保全」など、持続可能性の維持・向上につながる取組です。1,000年以上に渡って受け継がれてきた、こうした森、川、水田、湖のつながりは、世界的にも非常に貴重なものです。

◆琵琶湖システムを未来へ！

世界農業遺産「琵琶湖システム」は、農業者、漁業者をはじめとする地域の皆様のこれまでの取組が世界に認められたものです。世界に認められた「琵琶湖システム」を滋賀ならではのブランド、また、夢のある産業として担い手の育成につなげ、本県の農林水

産業を県民の財産としてしっかりと未来へ引き継ぐため、一緒に滋賀の農林水産業を盛り上げていきましょう！



琵琶湖のエリ漁（定置網）と水田



県内外のイベントにブース出展しPR活動も行っています。
見かけた際は、是非お立ち寄りください！



会員限定

メルマガ、ホームページにおける
情報掲載をご活用ください

詳しくはSGN会員ページから⇒

SGNでは、月1回程度、メールマガジン（希望者には『FAXリリース』）の配信を行っています。

環境関連イベントの告知や、グリーン商品の発売に関する情報提供等にご活用ください。メールマガジンの配信先は、SGN会員を中心に、環境に関心のある方（NGO/NPO・市民・行政や企業の環境担当者等）です。情報を掲載できるのは、SGN会員（正会員・賛助会員共）のみ！ぜひご活用ください！

メールマガジンの
投稿について

環境に関係した内容であれば、正会員・賛助会員いずれも投稿可能。
発信方法により無料と有料をお選びいただけます。

●料金：1,000 円（税別）／回（同一記事：最大2回まで）



Relay Talk

SGN会員でつなぐ

リレートーク>>>

オムロン株式会社 草津事業所

事業所長 長瀬 晶



オムロンは今年創業90周年を迎え「センシング&コントロール+THINK」技術を中核としたオートメーションのリーディングカンパニーとして、制御機器、電子部品、社会システム、ヘルスケアなどの事業を展開しております。

オムロン全社の環境活動としては、オムロン環境方針を定め、「脱炭素化」「循環経済」「自然共生」を重要な環境課題として取り組んでおります。

草津事業所としては「みんなで創ろう環境に優しい草津事業所、みんなが残そう美しい琵琶湖」をスローガンとして2001年にISO14001を取得し、以降様々な環境活動に取り組んでおります。2008年より金勝生産森林組合（当時上砥山生産森林組合）様と「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を締結し、森林組合様のご支援をいただき植樹や下草刈りなどの森林保護活動を実施してきました。最近2年ほどはコロナの影響で実施できておりませんが、昨年11月19日には金勝生産森林組合の皆さまの多大なご協力のもと3年振りに下草刈を実施することができました。私も参加しましたが当日は晴天に恵まれ紅葉の美しさに加え琵琶湖を望むパノラマの絶景が相まって、まさに琵琶湖を守る森林保護活動の大切さを実感することができました。この日は同時に家族イベントとしてクリスマス用のリースづくりも企画し、自然に触れながらそれぞれのご家族が協力し合い楽しい時間を過ごすことができました。

また食材の廃棄物再利用の活動として、隣接する農業高校様と産学連携によるフードリサイクル活動を実施しています。

①食堂にて野菜等の廃棄物が発生します。②社内の生ごみ処理機でたい肥化します。③農業高校様の野菜作りに使用します。④収穫した野菜を購入し食堂のメニューに使用します。また①に戻ります。WIN-WINの関係ができ廃棄物を有効利用しています。



下草刈りの様子



家族イベントで作ったクリスマスリース

■地域循環（事例）

食堂から残飯がでる ⇒ 社内の生ごみ処理機でたい肥化 ⇒ 近隣の農業高校へ寄付
⇒ 農業高校で野菜を収穫 ⇒ 取れた野菜を買い取り食堂で利用



オムロン(株)草津事業所のフードリサイクルの仕組み

また食堂では近江米をはじめ地元で獲れる食物を提供するなど地産地消を心がけています。

これからも地球環境を守ること前提として地域との共生を大切にしつつ、滋賀県草津市に立地するが故の環境保全活動に尽力をして参りたいと考えております。

今回はダイキン工業株式会社 滋賀製作所さんをお願いします。

オムロン株式会社 草津事業所

滋賀県草津市西草津2-2-1

TEL : 077-563-2181 FAX : 077-565-5588

URL : <https://www.omron.com/jp/ja/>

ごみゼロしが

滋賀県ごみ減量・資源化情報サイト



2022年7月よりSGNは、滋賀県ホームページ内「ごみゼロしが」サイトへの情報提供業務を受託しております～

食ロス削減、プラスチック削減、3Rに関する情報が住民向け情報、事業者向け情報、子ども向け情報に分けて掲載されています！是非お立ち寄りください。



潮流

衣・他 世界初! フランスで「衣類廃棄禁止令」が施行 更に紙製も含めた「使い捨て容器使用禁止」へ

2022年1月1日、常にファッションの先端を走り、アパレル業界を牽引してきたフランスで「衣服廃棄禁止令」が施行されました。具体的には売れ残った新品のアパレル製品を廃棄（焼却や埋め立て）することを禁止するもので、正式には「廃棄禁止及びサーキュラーエコノミーに関する法律」と言います。

この法律は、商品が環境に与える影響を明示する表示義務、食品以外の売れ残り品の廃棄を原則として禁止するといった内容が定められていて、違反した場合は最大1万5000ユーロ（約212万円）の罰金が課せられます。



そして衣類だけでなく、2023年1月1日からファストフード店で使い捨ての容器や皿、カップを使用できなくなります。この規制ではプラスチック製の容器だけでなく、紙容器までも使用禁止となり、イートインの容器はセラミックや樹脂、ガラスといった素材が使われるようになります。耐久性のあるアイテムを作ったり洗ったりすることはより沢山のエネルギーと水を消費し、環境保護の目的に反しているとの意見もありますが、消費者の意識を変え、ライフスタイルを変えていくためには、このような大胆な取り組みが必要かも知れませんね。

食 食品ロスをなくそう! 「てまえどり」が現代用語の基礎知識選 ユーキャン新語・流行語大賞トップ10に選出されました

手前にあるものからとっていこう。「てまえどり」とは、スーパーやコンビニエンスストアなどで、食品棚の手前に陳列された消費期限が早めの商品から買うようにしようという取り組みのことです。てまえどりすることによって、まだ食べられる食品を廃棄することが避けられます。

2020年度（令和2年度）の日本における食品ロスは年間522万トン発生しており、国連世界食糧計画（WFP）による2019年の食料援助量（約420万トン）を大きく上回っています。日本の食品ロスは、事業者と家庭からの割合がおおよそ半分かつとされています。

食品のロスが減ればコスト削減にもつながり地球環境にもやさしいですね。
「すぐに食べるなら、てまえから」

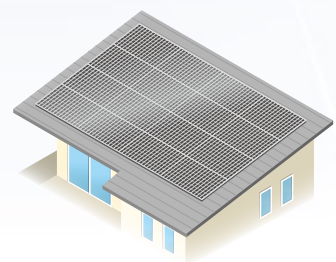


住 全国初! 東京都で新築住宅の太陽光パネル設置義務化!

東京都はエネルギー大消費地の責務として、2030年までに都内の温室効果ガスを50%削減する「カーボンハーフ」の実現に向け、再生可能エネルギーの利用拡大を推進しています。そのための施策として新築住宅への太陽光パネルの設置を義務化するための条例が、全国で初めて成立しました。

2025年4月以降、東京都内に新築される住宅に、太陽光パネルの設置を義務化する、というもので、対象は大手住宅メーカーなど50の事業者です。延べ床面積2000㎡未満・一戸建て住宅を含む新築の建物が対象です。

都内で1年間に新築される建物（約4万6000棟）のうち、半数が対象の見込みとのことです。効果について様々な意見が出ていますが要注目です。





会員発エコ商品情報

次号掲載
「エコ商品情報」
募集中!

～商売繁盛のお手伝い～ 食物由来繊維バイオマス生地

トラヤ商事株式会社

イベントやお店のPRに欠かせないのぼり旗や布製品。従来はポリエステル100%やテトロン素材の生地が多く使われています。私たちは、バイオマス生地を使用し環境に配慮した製品を作成しています。バイオマス生地はサトウキビの搾汁から砂糖を精製するときに残る、廃糖蜜から抽出したエチレングリコールを原料とした糸で織られた生地です。3種類の生地があり、バイオポンジ・バイオトロピカル・バイオトロマトの生地どれも「植物由来合成繊維配合率25%以上」「バイオベース合成ポリマー含有率10%以上」を満たしており、公益財団法人日本環境協会の認定を受け、のぼり本体へエコマークの印刷が可能となっております。ご使用後も、バイオマス生地に限りご返却頂ければ責任をもって固形燃料へとサマールサイクルさせていただきます。

※実際に作製したのぼり旗等の写真

〈お問合せ〉トラヤ商事株式会社

〒522-0088 彦根市銀座町5番4号
TEL: 0749-22-5821 (代) 営業部まで

業務用アルカリ洗剤 「バイウォッシュ」

有限会社橋本燃料

使用済み天ぷら油からバイオディーゼル燃料を精製する過程で出るグリセリン廃液をリサイクルして作った、植物由来・合成界面活性剤不使用で生分解性のとても高いエコ洗剤です。

グリセリン廃液を廃棄する時に発生していたCO₂ (2.92kg-CO₂/L) を削減することが可能です。(グリセリン廃液1Lから洗剤10L製造可能→洗剤1Lあたり約0.3kg-CO₂削減)

令和4年度しがCO₂ネットゼロみらい賞「製品・サービス部門」を受賞いたしました。



〈お問合せ〉有限会社橋本燃料

〒520-1621 高島市今津町今津1656-2
TEL: 0740-22-2140 FAX: 0740-22-2192
E-mail: info@hashimotonenryo.com
URL: https://hashinen97.base.shop/
(ネット販売BASE)

ご存じですか?



2023年6月1日より

アカミミガメ・アメリカザリガニが

「条件付特定外来生物」に指定され規制が始まります!

ポイント1

現在家庭でペットとして飼っているアカミミガメ・アメリカザリガニは、これまで通り飼うことが可能。申請や許可、届出等の手続きは不要。

ポイント2

池や川などの野外に放したり、逃がしたりすることは法律で禁止されます。違反すると罰則・罰金の対象に! カメやザリガニが自力で逃げ出した場合も違法! 逃げ出さないように注意!

ポイント3

もし飼い続けることが出来なくなったら、責任を持って飼うことの出来る人を探して! であれば申請や許可、届出等の手続きは不要。

でも出来るだけ寿命を迎えるまで大切に飼育してね!

編集後記

2023年3月で終わりを迎える活動ビジョンの改定に向け、企画広報部会で2回勉強会を開きました。

1回目の滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科 村上一真教授からは、「行動経済学、ナッジ、社会実装」と題して、行動経済学を活用した行動変容について、また2回目の京都大学 人文科学研究所 藤原辰史准教授からは、「分解の哲学～「食」をめぐる脱領域的考察～」と題して、心の豊かさ目指した環境配慮についてご講義いただきました。

いずれも非常にためになる内容で、今後の方向性や普及啓発する際の羅針盤になるような気がしました。今後のSGNの活動に活かして参りたいと思います。

戦争はいまだ終わらず、物価はまだまだ上昇中。生活し辛いつたらあやしい。でもこんな時こそ色々考えないといけませんね。

(事務局/竹ヶ原)



編集・発行／一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク

〒520-0807 滋賀県大津市松本1-2-1 大津合同庁舎6階

TEL: 077-510-3585 FAX: 077-510-3586

Eメール: sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL: https://www.shigagpn.gr.jp/

